

みどりのゆとり

<設計概要>

所在地 | 静岡県浜松市中区幸

延床面積 | 1階 5,585m²

階 数 | 地上2階建

構 造 | 鉄骨造 + 一部鉄筋コンクリート造

2階 4,793m²

学級形態 | 学級数 18学級

敷地面積 | 14,817m²

計 10,378m²

<背景>

敷地（現萩丘小学校）は浜松市中区の三方原台地上に位置する。左右を姫街道、バイパスの交通量の多い道路に挟まれ、近隣には航空自衛隊があり、喧騒な住宅街に囲まれている。しかしこれと脇を見ればそこには点々と緑地化された空地が無数に広がる。人口約80万人を抱える都市において住宅が密集するなかで少しの違和感を覚えつつ、幸いなことにこの緑はバッファゾーンとなり、喧騒な住宅街のなかに静寂をもたらしている。また必然的に住宅同士の距離を緩衝することに繋がり、採光や通風の環境装置としても機能する。それは密集した街に余白をもたらし、どこか“ゆとり”が漂う。

このゆとりを小学校というスケールの敷地に落とし込み、地域の象徴性を持ちながら街に馴染み共存することを目指した。

<コンセプト>

小学校は自然観察の場としてビオトープを有し、理科の動植物の観察や図画工作などの生徒の学びの場であるとともに、地域交流を育む場として積極的な活動が行われる。この根幹には自然の要素を持ち、地域の緑地というレイヤーと重ねることで、用途を共通させるとともに、敷地にゆとりを内包する。このゆとりを地域の構成に沿って、細分化しロの字型のユニットとして取り込むと、事後的に運動場>ビオトープ>庭のヒエラルキーが発生する。これらは外部（地域）との関係から次第に内部（生徒・先生）の親密な関係へと性質が変化するとともに、各々の関係性を柔らかく紡ぐバッファゾーンとして機能する。この“ゆとり”的なかで子供たちがのびのびと成長してくれることを願っている。



▲南面ファサード
“あそぶ”の庭で子どもたちが元気に走り回る

▲バッファーが2階へと突き抜ける

<グランドスケープ>



<形態ダイアグラム>

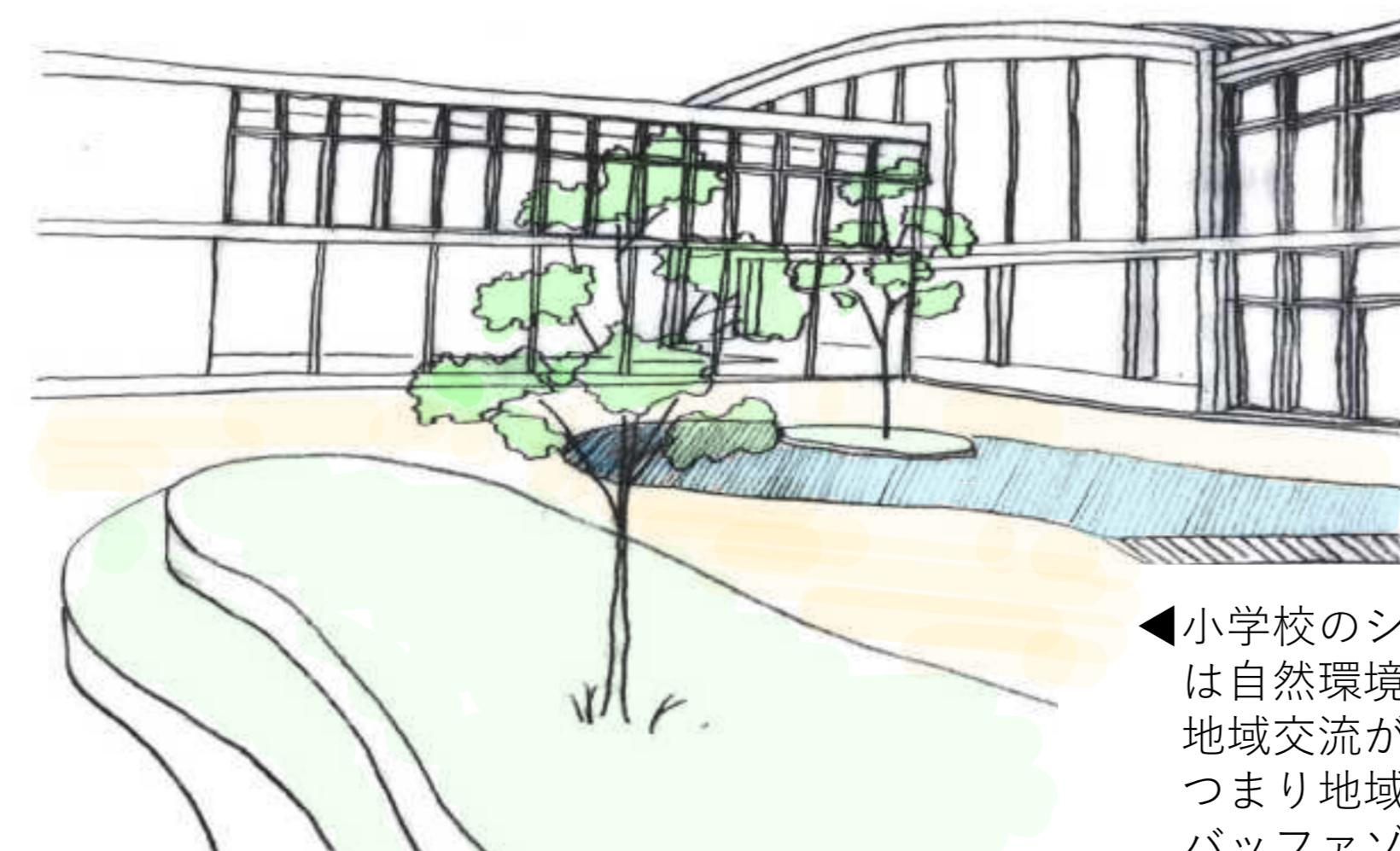
バッファゾーンを介した関係性のグラデーション



01 緑の緩衝地帯(=バッファゾーン)

喧騒な住宅街の中にあるにも関わらず、緑地化された空地が緩衝地帯(=バッファゾーン)として、街に“ゆとり”をもたらしている。敷地周辺の配置を形態として落とし込み、と同時に緩衝地帯としての関係性も取り入れることで、形態と空間の性質が合致し小学校に関する各々の関係を柔らかく繋いでいる。(下図:Nº1~3)

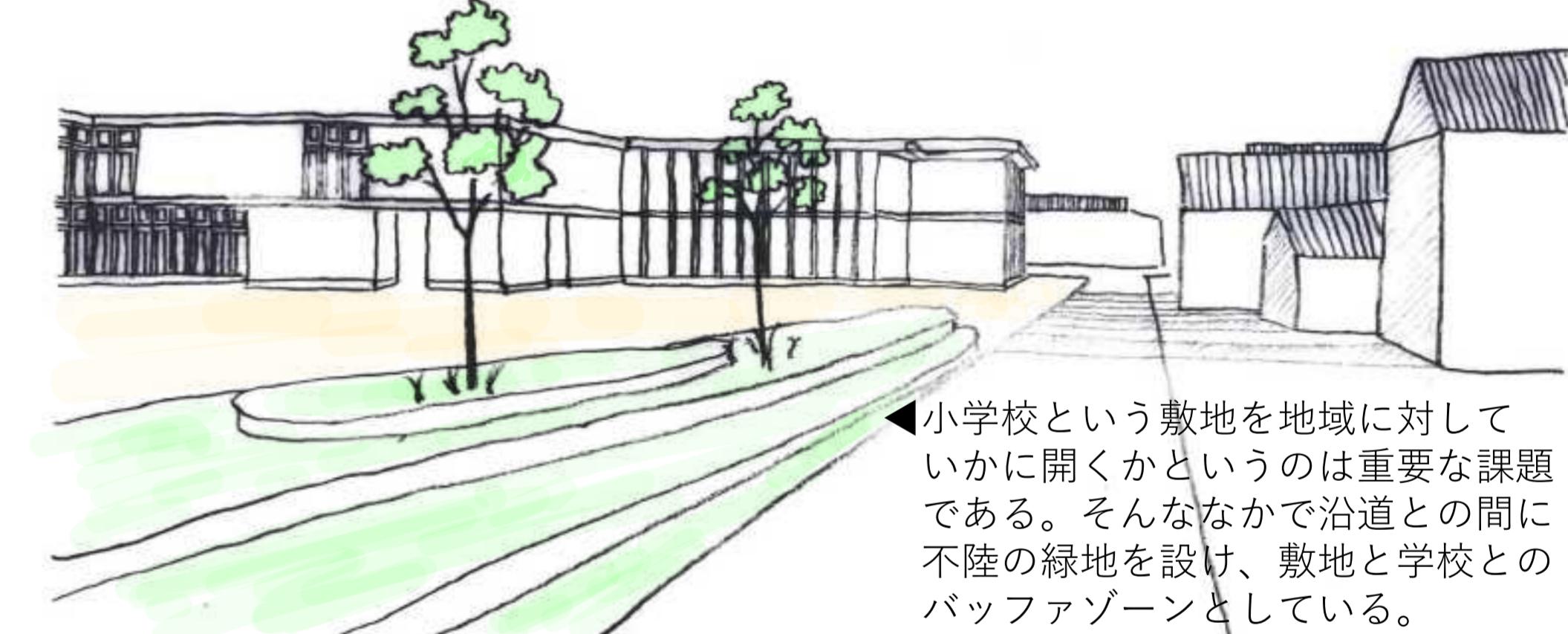
Nº2 地域と学校：ビオトープ(外観パース)



►ユニットに囲まれたテラス
あるいは教室間にあるテラスは
学校と生徒・先生の関係性を適度に
遮り遮らずのバッファゾーンである。

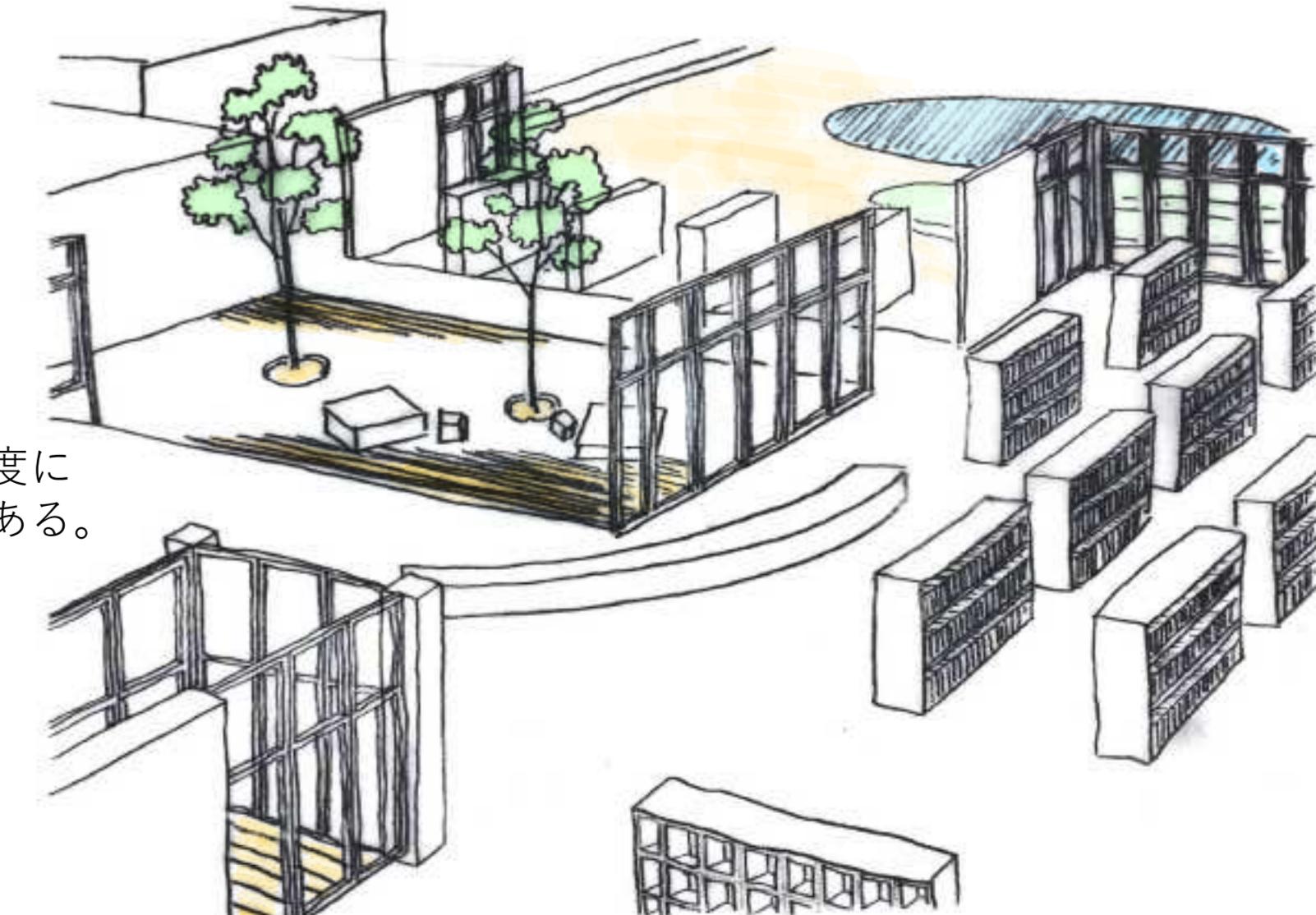
◀小学校のシンボルであるビオトープ
は自然環境豊かな場であるとともに
地域交流が盛んな場でもある。
つまり地域と学校とを橋渡しする
バッファゾーンである。

Nº1 敷地と学校：運動場(外観パース)



◀小学校という敷地を地域に対して
いかに開くかというのは重要な課題
である。そんななかで沿道との間に
不陸の緑地を設け、敷地と学校との
バッファゾーンとしている。

Nº3 学校と生徒・先生 (テラス) (内観パース)



▲敷地周辺図 Sc = 1:2500

左右を姫街道・住吉バイパスの交通量の多い道路に挟まれ、また近くには航空自衛隊基地がある。住宅密集地の中に、緑地化された空地が点在している。